

2019年（令和元年）7月 750号

## 聖ヨセフ・カラサンス「謙遜と徳の模範」

アントニー・ラジュ

私達は8月に聖ヨセフ・カラサンスのお祝いを迎える準備として、心の恵みの為に彼の人生について振り返りながら知ることは、とてもよい機会になると思います。彼の功績の偉大さを考えると同時に、その価値をさらに増幅させる彼の人生の側面を見てみたいと思います。

まず私は彼の偉大な素晴らしい「謙虚さ」に目を向けたいと思います。カラサンスの素晴らしい資質から、私は何よりもこの魅力的な芳しい性質、誠実さ、キリスト教の慎み深さを彼の輝かしい実りある生活の中での、もっとも貴重な教えの一つだと感じています。

カラサンスは常に名誉を受けることから辞退し、安易で形だけの賞賛から自分を遠ざけていました。彼の性格の秀でたところは、誰に対しても親切で、幼少期においても仲間の中心的存在でした。そして彼の心や穏やかな表情は、少年たちの中で非常に印象的であり、小さきものから大人に至るまで、彼は静かな賞賛の的でした。最初は誰かが「santet」聖なるものと冗談で彼の事と呼んでいましたが、神の召命は運命（fortune）となり、彼の祈りの真剣さを知っていた多くの人々から、本気で「santet」「聖なるもの」と呼ばれるようになりました。その一方で、彼は科学の分野においても、とても優れていて仲間の中で群を抜いて優秀でした。

もしかしたら内気な性格の人にとっては、謙遜する利点はあまり大切ではないように思えますが、対照的にカラサンスのように強烈な個性を持つ人にとってはとても大事なことだと想像できるでしょう。Lerida市では彼は哲学を学び、その点でも素晴らしい知性を示し、仲間たちはその時は、彼を「学校の王子」として選びました。彼は神学でも博士号を取得しました。彼は顧問、贖罪司祭、それから有名な Gasper. Juas の神学研究者となりました。

Tremp の教区司祭、そして若い時には Príncedon での十二使徒に関する研究により、有名であり感心されていました。著名になってきたある時、教会の内部の人々は彼をローマに呼びました。しかしそれでも謙虚で謙遜な態度の彼に、多くの人々は魅了されました。

ローマでは、コロンナ枢機卿は、神学者として、また家族の指導者になる為に彼を呼びました。そして彼は学校を宮殿の中に建て、したがって高貴な家族とも親しくなりますが、その一方でカラサンスは世の中から見捨てられた地域の慈善事業に多くの時間を捧げました。彼の目標はより膨大な計画を求めている

たのです。貧しい人々への教育とキリスト教的指導は、それまでは不可能とされてきましたが、彼の執念となっていきました。彼はその時点で既に新しく改革された社会を夢見て、貧しい子供たちへの自由な教育は、彼の人生の真の目的になりました。

神から送られた彼にとっては、慈愛への強い要求であり、そのことに対する聖なる信頼感と大いなる喜びをもって Pious 学校を創設し、学長として小さき者への教えを続けることに、強い心をもって彼自身を捧げたのです。

彼は何もないところから始めましたが、数年後にはローマのよき家族が Pious 学校へ彼らの子供たちを通わせることを誇りに思いました。そして、そこでは授業料は無料であり、何百人もの生徒がいたのです。神父達の愛情、教育法の堅実さがあるこの Pious 学校は神からの贈り物の一つでしょう。

このように素晴らしい栄光の恵に包まれ、カラサンスは小さき者への教育を絶やすことなく続け、General 総長としての責務を果たしながらも、小さき者への教育を惜しみなく続けたのでした。